

神奈川県立金沢養護学校



# 学校だより

第57号 平成23年12月21日

キャリア教育（8）

副校長 渡邊昭宏

もっと教員の数を増やして手厚いケアをして欲しいという保護者や教職員組合の要望に応えるかたちで、今年度から都立の肢体不自由特別支援学校では、教員1名の代わりに「介護」のプロである介護福祉士2人を非常勤で雇用するという人事を実施し、一挙に20名以上の介護福祉士が入ってきた学校もありました。ところで「介護」と「教育」はどう違うのでしょうか。今回は「キャリア教育」の観点で違いを見ていくことにします。

例えば包丁とか火など危険なものが部屋にあったとします。「介護」では事前に介護者が身の回りから危険なものをすべて取り除き、お子さんが危険なことをしようとすれば制止し、ましてや危険を冒してまで何かをさせるなどということはありません。

しかし「教育」では細心の注意を払いながらも、児童生徒自身が危険を予知して回避できる行動がとれ、また危険を覚悟のうえで行動することができるように、発達段階に応じて支援し、学習を積み重ねていきます。ですからその過程においては、ちょっと失敗することや軽い怪我をすることもあるでしょう。しかし失敗や怪我を恐れていた、それから逃げていたのでは、いつまでも「生きる力」はつきません。人類は長い歴史のなかで、失敗から学び、次に失敗しない知恵をつけてきました。包丁にしても火にしても安全に注意して上手に使いえばこんなに便利なものではありません。調理実習は「教育」だからこそできるのです。それは道具や機械を使う図工・美術や作業学習であっても同じです。

排泄や食事や着脱等の支援についても、最近では心地よさとか本人の意思尊重といった部分も気にされているものの、やはり「介護」では安全・迅速・確実に介助することが基本です。しかし「教育」では日常生活場面であっても、本人にとっての大切な学びの場であるという立場に立って、動作の支援ではなく、成長発達を促す支援をしていきます。

つまり排泄や食事や着脱等が単にできるようになればいいというのではなく、その過程で、他人とのコミュニケーションを通じた関係づくり（人間関係形成能力）、言葉かけや写真カードの提示（情報活用能力）、見通しがもてるようにする工夫（将来設計能力）、やる気や意欲や勇気の引き出し（意思決定能力）を意識しながら支援していきます。

「教育」に関わる教員は、目の前の子どもたちの安全確保や身の回りの世話のためだけにいるわけではありません。昨日より今日、今日よりも明日、いつときもお子さんの成長を止めることなく、その成長をお子さん自身や保護者の皆さんに実感してもらい、明日への希望と意欲をかきたてるためにいるのです。そのなかで教員自身もお子さんや保護者の皆さんから学び、キャリア発達をさせていただいています。「経験豊富な」とか「ベテランの」ということばがつく教員を目指して、これからも一生懸命努力してまいります。

いつもより長い冬休みになります。皆様、良いお年をお迎えください。